《　応募書類作成に当たっての留意事項　》

【履歴書（様式１）】

１　「生年月日（　歳）」の欄には、記入日現在における満年齢を記入してください。

２　「学歴」の欄について

① 高等学校卒業以降について記入してください。大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む。） を有する場合、すべての学歴（授与された学位及び称号を含む。）を記入してください。なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。

② 学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記してください。

③ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。外国における資格にあっては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。

④ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。

⑤ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。

３「職歴」の欄について

① すべての職歴（自営業、主婦、無職等を含む。）を記入するとともに、職名、地位等についても明記してください。

② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については（現在に至る）と記入してください。

③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。

④ 過去における教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあっては、 判定結果を含む。）を記入してください。また、過去における高等専門学校の教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時期、高等専門学校の名称、職位及び担当授業科目の名称を記入してください。

⑤ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

４「学会及び社会における活動等」の欄について

①「現在所属している学会」には、記入時において所属する学会の名称を記入してください。

② 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。

③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

５　「賞罰等」の欄について

① 学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。

② 学生及び教職員に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として、懲戒処分（退職後に懲戒処分相当とされた場合も含む。）又は分限処分を受けた

場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入してください。

③ 処分歴を記載しない等、履歴書の内容に虚偽の記載があった場合は、採用取消しや懲戒処分等の対象となることがあります。

６　「職務の状況」の欄について

①　記入日現在における職務の状況について記入してください。

②　大学等の教員の場合は、「勤務先」に大学等の名称、「職名」については「教授」「准教授」等の職位を、「専任等の別」については担当授業科目ごとに、「専任」(所属学部･学科の授業科目担当)「兼担」(所属学部･学科以外の授業科目担当)「兼任」(非常勤講師としての授業科目担当)のいずれかを記入してください。

「授業時間数」については、総授業時間数(1コマ2時間として換算。集中講義の場合は総時間数(30時間、60時間))を記入し、「備考」欄にその旨記入してください。

③ 大学等の教員以外の場合は、「担当授業科目」は空欄とし、「備考」欄に職務の実態がわかるように、適宜記入してください。ただし、大学等における非常勤講師がある場合は、上記②により記入してください。

④　各欄の幅については、記入しやすいよう適宜変更してください。

履歴書の記載方法

項目	方法
氏名	戸籍上の名前を記載する。 ただし、婚姻等で姓を変更したものについては、（ ）で旧姓を記載してもよい。
生年月日 （年齢）	年齢は、当該申請に当たり、書類を作成した時点での満年齢を記入する。
学歴	① 高等学校卒業から記入する。 ② 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する場合、すべての学歴を記入する ③ ②以外の場合には、最終学歴を記入する。 ④ 博士課程において所定の単位を取得し、博士の学位を授与されないまま退学した場合で、満期ならば「博士課程単位取得後満期退学」、満期でない場合は「博士課程単位取得後退学」と記入する。 ⑤ 学位、称号については、付記された専門分野の名称及び学位論文の題目を併記する。 ⑥ 医師、看護師等の資格についても記入する。 ⑦ 学生として外国の大学や研究機関等への留学歴も記入する。 ⑧ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を記載する。
職歴	① すべての職歴を記入し、職名、地位等についても明記する。 ② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入する。 ③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入する。
学会及び社会における活動等	① 本人の専攻、研究分野等に関連した事項について記入する。 ② 現在所属している学会を記入する。 ③ 教育研究上の業績を有する場合は、その内容を具体的に記入する。
賞罰	① 学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。 ② 学生及び教職員に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として、懲戒処分（退職後に懲戒処分相当とされた場合も含む。）又は分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入してください。 ③ 処分歴を記載しない等、履歴書の内容に虚偽の記載があった場合は、採用取消しや懲戒処分等の対象となることがあります。
職務の状況	① 記入日現在における職務の状況について記入する。 ② 本務のみでなく、非常勤講師として担当している科目についても記入する。 ③ 授業時間数は、担当科目の総授業時間数を記入する。（試験は含まない） ただし、同一科目を複数クラス担当する場合は、「総授業時間数 × クラス数」を記入し、分担する場合は「担当時間 / 総授業時間数」を記入する。 また、備考欄に担当クラス数又は「分担」「オムニバス」等記入する。 なお、授業時間数は90分授業を2時間として計上する。

様式第２号（第４条関係）

履　　歴　　書

（ふりがな） 氏　　名	けんだい たろう 県大　太郎	性別	生年月日 （　歳）	年　月　日生 （　歳）
現　住　所	（〒734-8558　） 広島県広島市南区宇品東○－○－○			
勤務先所在地	（〒734-8558　） 広島県広島市南区宇品東○－○－○			
連絡先電話番号	□□□-□□□-□□□□			
連絡先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	□□□-□□□@□□□□			

記入時の満年齢を明記

学　　歴

年　月	事　項
昭和○年 3 月	広島県立○○高等学校○○科卒業
昭和○年 4 月	○○大学医学部医学科入学
昭和○年 3 月	○○大学医学部医学科卒業　　学士（医学）　題目「 」
昭和○年 5 月	医籍登録　　第○○号
平成○年 4 月	○○大学大学院○○研究科○○専攻修士課程入学
平成○年 4 月	□□□University、UK（□□□大学）留学（平成○年 10 月まで）
平成○年 3 月	○○大学大学院○○研究科○○専攻修士課程修了　　修士（○○学）　題目「 」
平成○年 4 月	○○大学大学院○○研究科○○専攻博士課程入学
平成○年 3 月	○○大学大学院○○研究科○○専攻博士課程〔単位取得後（満期）退学〕
平成○年 10月	○○大学大学院○○研究科　　博士（○○学） 題目「 」

留学期間がある場合は、 留学先の名称をアルファベットとカタカナで併記　※国名必須

学位に付記された専攻分野の名称を記載
学位論文の題目を併記

所定の単位を取得し、学位を授与されないまま退学した場合、「満期退学」か否かを明記

職　　歴

年　月	事　項
昭和○年 4 月	△△大学△△学部△△学科　　助手（平成○年 3 月まで）
平成○年 10月	○○○Institute、 USA(○○○研究所) 研究員（平成○年 3 月まで）
平成○年 4 月	▽▽大学△△学部△△学科　　講師　　（平成○年 3 月まで）
平成○年 4 月	□□大学○○学部△△学科　　准教授 現在に至る

在職期間を明記

学会及び社会における活動等

年　月	事　項
昭和○年 4 月	日本○○学会会員（現在に至る）

賞　　罰　　等

年　月	事　項
平成○月 7月	日本○○学会　◇◇賞 受賞

同一科目を複数ｸﾗｽ担当する場合

職　務　の　状　況

勤務先名称	職　名	学部・学科等（所属部局）の名称	担当授業科目			備　考
			授業科目名	専任等の別	授業時間数	
□□大学	准教授	○○学部△△学科	○○学概論	専任	30×2	2 ｸﾗｽ担当
□□大学	准教授	○○学部△△学科	○○学演習	専任	10/30	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
□□大学	准教授	○○学部△△学科	○○学実習	専任	60	

総授業時間数を記入（原則 15 回分）
分担する場合は、○/□と記入し、
担当時間を明確にする
なお、授業時間は 90 分を 2 時間として計上する。

上記のとおり相違ありません。
令和　　年　　月　　日　　氏　　名

注）
１　「生年月日（年齢）」の欄には、記入時の満年齢を記入すること。
２　「学歴」の欄には、大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する者は、これらの学歴（学位、称号を含む。）のすべてについて記入し、その他の者は、最終学歴について記入すること。なお、資格等についても同欄に記入すること。

3　「職歴」の欄には、職歴のすべてについて記入し、職名、地位等についても明記すること。
4　「学会及び社会における活動等」の欄には、本人の専攻、研究分野等に関連した事項について記入すること。また、教育研究上の業績を有する場合は、その内容を具体的に記入すること。
5　「職務の状況」の欄には、記入日現在における職務の状況について記入すること。
6　「性別」の欄への記載は任意とし、未記載とすることも可能。
7　「賞罰等」の欄には、受賞、刑罰、懲戒処分等の経歴を記入し、学生及び教職員に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として、懲戒処分（退職後に懲戒処分相当とされた場合も含む。）又は分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入すること。
8　履歴書に記入した自己申告の内容に疑義が生じた場合、本人同意を得て過去又は現在の勤務先に詳細を確認することや、退職理由や懲戒処分事案の概要等の情報を照会することがある。
9　処分歴を記載しない等、履歴書の内容に虚偽の記載があった場合は、採用取消しや懲戒処分等の対象となることがある。

【教育研究業績書（様式２）】

１　この書類は、公募分野・担当予定授業科目に関連する教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び著書、学術論文等の業績について作成してください。

２　「氏名」の欄について

本名を記載してください。 旧姓等の通称名を使用している場合は（ ）書きで併記してください。

３　「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について

① 担当予定授業科目に関連する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。

② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。

③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。

④ 「教育上の能力に関する事項」の例

ア　教育方法の実践例

〇授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開等

〇 司法研修所等の教育機関における教育経験

イ 作成した教科書、教材

〇授業や研修指導等で使用する著書、教材等

ウ　教育上の能力に関する大学等の評価

〇 各大学における自己点検・評価での評価結果

〇学生による授業評価、教員による相互評価等の結果

エ　実務の経験を有する者についての特記事項

〇 大学から受け入れた実習生等に対する指導

〇 日本薬剤師センター等の職能団体の依頼による研修指導等

〇訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修

〇大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

オ　その他

〇 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等

〇 国家試験問題の作成等

⑤ 「職務上の実績に関する事項」の例

ア　資格、免許

〇医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格で担当予定授業科目に関連するもの

イ　特許等

〇特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの

ウ　実務の経験を有する者についての特記事項

〇 大学との共同研究

〇 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績

○ 各種審議会・行政委員会、各種ＡＤＲ等の委員
○ 行政機関における調査官等
○ 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
○ 調査研究、留学、海外事情調査等
○上記を裏付ける報告書、手引き書、マニュアル、雑誌等

エ　その他
○ 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
○ 論文の引用実績等

⑥ 資格の証明書、雇用者や各種団体からの表彰・推薦文書等を必要に応じて添付してください。

４　著書、学術論文等の業績について

① 記入時において未発表のものは記入できません。

② 「著書、学術論文等の名称」の項について

ア　研究等に関連する主要な業績を、「（著書）」、「（学術論文）」、「（その他）」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入してください。

イ　著書については、書名及びISBNｺｰﾄﾞ、ISSNｺｰﾄﾞを記入してください。

ウ　学術論文については、学術雑誌、学会機関紙、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、その旨を明記してください。

エ　その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあっては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあっては当該テーマを記入してください。

③ 「単著・共著」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入してください。「共著」で筆頭著者を務めた場合は「（FA）」論文責任者を務めた場合は「（CA）」を付記してください。

④ 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。

⑤ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について

ア　著書については、発行所を記入してください。

イ　学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記してください。

ウ　報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。

⑥ 「概要」の項について

ア 当該著書等の概要を200 字以内で記入してください。

イ 当該著書等が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人の氏名（下線を付すこと。）を含め著作者全員の氏名（多数にわたる場合は主要な共著者の氏名）を当該著書等に記載された順に記入してください。また、本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を記入してください。

⑦ 各欄の幅については、記入しやすいよう適宜変更してください。

教育研究業績書の記載方法

項目	方法	
氏名	戸籍上の名前を記入する。 ただし、婚姻等で姓を変更したものについては、( ) で旧姓を記入してもよい。	
教育上の能力に関する事項	① 担当授業科目等に関するものを記入する。 ② 区分ごとに、過去から現在までを簡潔に記入する。 ③ 「年月日」の欄は、実施期間を記入する。継続中のものは「～現在」と記入する。	
	教育方法の実践例	授業及び授業外における学習を促進する取組等
	作成した教科書・教材	授業や研修指導等で使用する著書、教材等
	教育上の能力に関する大学等の評価	教員業績評価、学生による授業評価結果
	実務の経験を有する者についての特記事項	地方公共団体の審議会委員 公開講座における講師、シンポジウムにおける講演
	その他	大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等 国家試験問題の作成等
職務上の実績に関する項目	① 高等学校卒業から記入する。	
	資格・免許	医師、看護師等の国家資格で担当（予定）授業科目又は研究領域に関連するもの。
	特許、実用新案等で担当（予定）授業科目又は研究領域に関連するもの	特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの。 特許出願、特許公開、特許登録の別も明記する。
	実務の経験を有する者についての特記事項	各種審議会・行政委員会等の委員 行政機関における調査官等
	その他	論文の引用実績等、卓越性を示す事項
著書、学術論文の名称	①発行されているものを記入する。ただし、受理されたもの（受理又はAcceptedと追記）や印刷中のもの（印刷中又はin pressと追記）は含めることができる。	
	著書、学術論文の名称	①「著書」「学術論文」「その他」の項目に区切り、それぞれ発表順（昇順）に通し番号を付して記入する。 ②「学術論文」で査読付のものは「（査読付）」を付記する。 ③著書についてはISBNコード、ISSNコードを書名の後に記入する。 ④「その他」には、総説や学会発表（国内学会、国際学会）などを記入する。
	単著・共著	①当該著書等に記載された著作者が単独である場合は「単著」、著作者が複数いる場合は「共著」と記入する。 ②「共著」の後に、筆頭著者の場合は「（FA)」、論文責任者の場合は「（CA)」を付記する。
	発行又は発表の年月	当該著書等の発行又は発表年月を記入する。
	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	①著書については、発行所を記入する。 ②学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記する。 ③報告発表等の場合は、学会大会名、開催場所を明記する。
	概要	①当該著書等の概要を200字以内で記入する。 ②当該著書等が共著の場合は、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人の氏名（下線を付すこと）を含め、著作者全員の氏名（多数にわたる場合は主要な共著者の氏名のあとに「他○名」と記入）を当該著書等に記載された順に記入する。また、本人の担当部分の抽出が困難であるときは、その理由を記入する。

様式第３号（第４条関係）

教　育　研　究　業　績　書

実施期間を項目ごとに昇順で記載（和歴）

令和　○年　○月　○日
氏名　　県大　太郎

教育上の能力に関する事項	年月日	概　　要
ア 教育方法の実践例 資格試験対策講座の実施 視聴覚教材を利用した講義	令和○年 4 月～現在 令和○年 4 月～現在	資格試験対策講座の企画・運営に従事し、合格率を○%から◇%へ向上させた。 「○○学」「△△学」を担当する上で、パワーポイントやビデオを用い、わかりやすい講義を展開している。
イ 作成した教科書、教材 資格試験対策関連テキスト	令和○年 11 月	資格試験問題の内容を検討し、将来的展望も見据えて作問した。
ウ 教育上の能力に関する大学等の評価 教員業績評価 学生による授業評価	令和○年～ 令和○年	毎年実施される学生授業評価において、平均○点と高い評価を得ている。
エ 実務の経験を有する者についての特記事項 高大連携講座	令和○年 8 月	高校生○名を対象に、大学の模擬授業を実施した。 テーマ：※※※※※※※※
オ その他 ○○協議会○○委員	令和○年 4 月～令和○年 3 月	○○協議会における○○委員として○○を実施した。

職務上の実績に関する事項	年月日	概　　要
ア 資格、免許 医師免許	昭和○年 5 月	医籍登録（第○○号）
イ 特許等 ○○用装置	昭和○年 12 月	○○のための○○用装置を共同開発した。 担当：○○の方法提案及び○○に関する実験・検証 共同出願者：A、B、県大太郎、C、D
ウ 実務の経験を有する者についての特記事項 広島県○○審議会委員	令和○年 4 月～令和○年 3 月	学識経験者として就任
エ その他 論文引用実績		

発表順（昇順）に通し番号をつけて記載

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1 書 名 （ISBN……） 2 書 名 （ISSN --------）	単著 共著	令和○年 7 月 令和○年 11 月	××書房 △△堂	○○○についての考察 ○○について解説した 担当：第 2 章第 3 節○○の方法 pp.73-98 執筆者：F、県大太郎、G、H、I、J、K
（学術論文） 1 論文名 （査読付）	共著 （FA）	令和○年 2 月	○○ 研究 17 巻 1 号、pp．66－81	○○について検証し△△となることを示唆した 担当：共同研究により担当部分抽出不可 執筆者：県大太郎、L、M、N 他 10 名

ISBN コード、ISSN コードを記載

筆頭著者の場合

2　monograph （査読付）	単著	令和〇年 7 月	Journal vol.18 pp.127-131	〇〇の有効性を確認した
3　monograph2 （査読付） 論文責任者の場合	共著 （CA）	令和〇年 12 月	Journal vol.18 pp.221-229	〇〇のために□□の解析を行った。 担当：研究立案、論文執筆、全体のまとめ 共著者：XXxx YYyy、Taro　Kendai、Pppp Rrr
（その他） 【総説】 1　発表テーマ	共著	令和〇年 1 月	※※センター研究報告 20 号、 pp.29-36	〇〇の有用性を検討した。 担当： 共著者：S、T、U、県大太郎、V
2　発表テーマ	単著	令和〇年 3 月	〇〇大学〇〇学部紀要 第 8 号, pp.75	〇〇の影響を調査し、比較検討した。
【学会発表】 1　paper （査読付）	共著 （FA）	令和〇年 5 月	International of Congress （ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）	〇〇について調査した結果、〇〇傾向が認められた。 共同演者：Taro Kendai、Pppp Rrr
2　発表テーマ （査読付）	単著	令和〇年 9 月	第□回〇〇学会（大阪）	〇〇の事例から、〇〇について分析した結果、〇〇を示した。
【その他】 なし				
上記記載のとおり 著書　2 編 学術論文　3 編 うち査読付 3 編、 英文 2 編、和文 1 編 単著 1 編、共著 2 編 うち FA 1 編、CA 1 編 その他 紀要　2 編 国際学会発表　1 編 国内学会発表　1 編 業績のまとめを記載				

（注）

1　この書類は、担当授業科目等に関連する教育上の能力に関する事項、職務上の業績に関する事項及び主要な著書、学術論文等について作成すること。

2　「著書、学術論文等の名称」の欄には、著書、学術論文、その他の順に、また、それぞれ年月順に、番号を付して記入すること。

3　「単著、共著等の別」の欄は、単著・共著・編著・編（監修）の別を明確にして記入すること。

4　「概要」の欄には、教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び著書、学術論文等の概要について、各項目、各学術論文等ごとに２００字以内で具体的に記入すること。

なお、著書、学術論文等が共著の場合は、担当部分及び頁数を明記するとともに、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を、当該著書、学術論文等に記載された順に記入すること。